

参考 家庭系ごみを**160g**削減するための取組目安
～ お茶碗1杯分の取組 ～

ここでは、家庭系ごみについて、令和4年度のごみ組成調査の結果をもとに、令和5年度実績値 660g/日・人から令和11年度目標値 503g/日・人の達成(157g/日・人の削減、約160g/日)に一人ひとりがどの程度の削減取組が必要かを参考として示します。

●生ごみの水切りの実施

調理の際に発生する調理くずや残飯など食べ残しは、重量の約30%が水分といわれており、捨てる際、水切りを行うことで約10%程度の減量が可能となります。

≪削減量≫

家庭系ごみの約32%を占める食品廃棄物のうち、約77%が生ごみ
⇒生ごみは家庭ごみの約25% (32%×77%)
水切りによって2.5%削減 (25%×10%)
⇒令和6年8月に実施した市民アンケート結果より、回答者の約66%が水切りを実施しているため1.65%削減済 (2.5%×66%) とすると、水切りによってさらに**0.85%削減** (2.5%－1.65%)
約5.6g削減 (660g×0.85%) …①

●食品ロスの削減の実施

意識啓発を通じて、手つかず食品の7割削減を図ります。

≪削減量≫

家庭系ごみの約32%を占める食品廃棄物のうち、約23%が手つかず食品
⇒手を付けずに捨てられている食品は家庭ごみの約7% (32%×23%)
食品ロスの7割削減によって**4.9%削減** (7%×70%)、
約32.3g削減 (660g×4.9%) …②

「生ごみの水切り」と「食品ロスの削減」で約37.9g削減
⇒お茶碗1杯(約150g)に例えると、約3分の1杯分



●紙類、プラスチック類の分別の徹底、集団回収、民間資源回収の活用

現在可燃ごみに含まれている紙類、プラスチック類のうち、リサイクル可能なもの(新聞・広告、容器包装、雑がみ、ペットボトル、プラスチック製容器包装など)の分別を徹底や民間事業者による資源回収を活用し、可燃ごみからそれぞれ6割の削減を図ります。

≪削減量≫

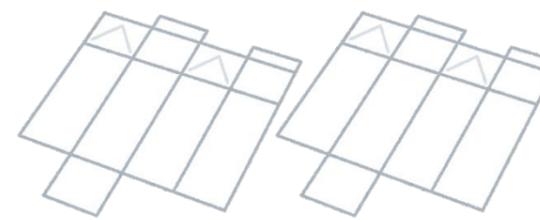
紙類(6割削減)

家庭系ごみの約33%を占める紙類のうち、約49%が資源化可能

⇒資源化可能な紙類は家庭ごみの約16% (33%×49%)

分別徹底及び集団回収、民間施設利用によって**9.6%削減** (16%×60%)、
約63.4g削減 (660g×9.6%) …③

⇒1,000mlの紙パック(約30g)に例えると、約2枚分



≪削減量≫

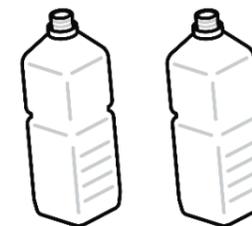
プラスチック類(6割削減)

家庭系ごみの約21%を占めるプラスチック類のうち、約73%が資源化可能

⇒資源化可能なプラスチック類は家庭ごみの約15% (21%×73%)

分別徹底及び民間施設利用によって**9.0%削減** (15%×60%)、
約59.4g削減 (660g×9.0%) …④

⇒500mlのペットボトル(約30g)に例えると、約2本分



生ごみの水切り 食品ロス 7割減 紙類 6割減 プラスチック 6割減

5.6g + 32.3g + 63.4g + 59.4g = 160.7g削減
(①から④の合計)